

エリアで見る美作道



石倉 [太市地区]

名所として知られた「石の鞍」

古来から日本人には岩や石を信仰する文化があります。石倉の地名の由来ともいわれる石の鞍もその一つで、美作道沿いにあり多くの人に注目されたため、『播磨鑑』などに播磨の名所古跡としてその名が記されています。ここから美作道のルートを外れて北上すると、峰相山鶏足寺跡があります。中世播磨の地誌『峯相記』によると、鶏足寺は神功皇后が連れ帰った新羅国の王子が創建した寺と伝えられています。天正6年(1578年)、羽柴(豊臣)秀吉に攻撃されて全山が焼失し、廃寺になりました。南側には古代山陽道の太市(邑智)駅家跡(向山遺跡)があります。



石の鞍



峰相山鶏足寺



太市(邑智)駅家跡

飾西 [白鳥地区]

伊能忠敬が滞在した飾西宿

江戸時代初期頃から美作道・因幡街道の宿駅として繁栄しました。本陣は庄屋・中山助太夫が務め、今もその門や書院が残っています。伊能忠敬が測量に際し文化10年(1813年)に飾西本陣と内海屋才助宅に宿泊しています。付近には、中山助太夫が文政年間(1818年～1830年)に開き、その息子が本堂を建てたと伝えられる顕正院妙見堂があります。白鳥小学校の西には「右 ひめぢ 左 書写山」と刻まれた道標があり、ここから北への道は四辻、書写、広峰に通じていました。



飾西本陣跡



飾西の道標

伊勢 [伊勢地区]

参勤交代の記録に残る伊勢茶屋

大津茂川が中央に流れる伊勢地区。その南部を美作道が縦走しており、飾西と追分(たつの市)の間の休憩所として伊勢茶屋がありました。鳥取藩主や山崎藩主の参勤交代記録に伊勢茶屋の様子が記されています。街道沿いには柳神社があります。垂仁天皇の時代、天から十二の幡が舞い降り、その一つが下伊勢の柳の枝にかかり、天照大神が現れたといわれています。北に少し行くと伊勢山・神座の窟と呼ばれる天然の岩窟があり、江戸時代後期の播磨国の名所旧跡案内記『播州名所巡覧図絵』(享保4年(1804年))にも記述があります。また、上伊勢・下伊勢は天正8年(1580年)に黒田官兵衛の領地となった場所でもあります。



伊勢茶屋・因幡街道



柳神社



伊勢山・神座の窟